



防災から学ぶ

消防庁国民保護・防災部防災課

田島 大毅

TAJIMA Daiki

平成29年 4月 総務省採用
現職

■災害による被害を減らすために

総務省で消防の業務というのはイメージしにくい方も多いと思いますが、私は今、消防庁の防災課と地域防災室に配属され、国や地方公共団体の防災体制の構築から、地域住民の防災活動など、幅広く防災に関する業務に携わっています。主な仕事内容としては、防災に関する統計調査の取りまとめや公表を行ったり、地方公共団体からの問い合わせ対応や、関係省庁との連絡、調整などの業務を行っています。

また、大きな災害が発生した際には、消防庁の危機管理センターに消防庁災害対策本部が立ち上がり、消防庁全庁体制で災害対応にあたります。

地震、台風、火山噴火など、さまざまな自然災害の脅威がある中で我々日本人は暮らしています。こういったさまざまな自然災害による被害を減らすため、国や地方公共団体の防災体制を構築したり、地域住民一人ひとりが防災意識を高めることは非常に重要なことです。

■総務省に入省して

入省1年目で消防庁に配属になり、4月当初は右も左も分からないような状態でしたが、周りの上司や先輩など多くの方々に助けられ、様々な業務に携わらせていただきました。

1年目という立場で、全国の都道府県や市町村の担当者に対する研修会を企画・実施したり、また、7月には九州北部豪雨が 발생し、災害対応も経験しました。

また、総務省では、都道府県や市町村から出向されている方々と共に仕事をしています。特に消防庁では、日々現場で災害対応にあたっている消防士の方々と共に仕事をすることができ、貴重な経験をさせていただきました。こうした方々と出会えることも、総務省の大きな魅力の一つだと思います。ぜひ総務省で、一緒に働いてみませんか？

Question & Answer

Q. 総務省を志望した理由は？

A. 説明会で総務省を訪れた際に、説明されていた職員の方の雰囲気がとてもよく、職場の明るさを感じました。また、総務省では、地域振興や地方財政、地方税制、消防など、多岐にわたる業務を経験することができ、さらに、地方勤務の機会もあります。こういったさまざまな経験を通じて、自分を成長させてくれる職場だと感じたのが、総務省でした。

Q. 入省して一番驚いたことは？

A. 総務省は全国の自治体から出向されている方が非常に多いです。いろんな県や市町村の方と出会い、全国につながりを持っている方が非常に魅力的です。また、仕事にとってもスピード感があります。このような上司や先輩のスピード感ある仕事ぶりは、1年目の私には非常に勉強になります。



Private Life

休日は職場の同期と遊びに行きます。温泉やキャンプに行ったりするなどして、休日はリフレッシュしています。同期はこれからずっと共に働いていく仲間なので、仕事では切磋琢磨しながら、プライベートでは絆を深めていけたらと思います。

